

## 令和5年度 第4回 帯広市学校給食センター運営委員会議事概要

日時 令和6年1月19日（金）午前10時～

場所 帯広市学校給食センター 2階 研修室

出席者【委員】 和田会長、宗岡委員、中野委員、大橋委員、小原委員、政野委員、八代委員、三浦委員、佐々木委員、水野委員、清水委員

【事務局】 服部学校教育部長、中小原学校教育室長、藤原学校給食センター長、石田主幹、古井係長、佐藤主任

### 【会議次第】

#### 1 開 会

#### 2 報 告

##### （1）学校給食嗜好調査について

（説明資料1に基づく事務局からの説明要旨）

本アンケートは学校給食について児童生徒に好まれている献立、苦手と感じられている献立などの嗜好を調査することで、今後の食育のあり方や、目玉メニューなどを含めたより良い献立作成の基礎資料とすることを目的に毎年実施している。

実施校は、市内12校を抽出し、小学生5年生、中学校2年生を対象として計1,036名にタブレットを用いて回答を依頼し、回答率は、全体で84.9%となっている。

調査結果は、学校給食が大好きあるいは好きと回答した児童生徒の割合は80.3%となったが、前年度と比較して0.9%減少した。また、全献立のベスト3について、これまで1位だった「肉じゃが」が2位となり、代わりに「カレーライス」が1位となった。

調査結果については、今後の食育指導や、献立作成や3月の卒業シーズンにあわせて実施している人気メニューの提供に活用するほか、人気のない献立については見直しについて検討を行う。本調査結果は各学校へ配布するほか、学校給食センターホームページ上での公開を行う。

#### 3 議 事

##### （1）給食費の改定について

給食費の改定にかかる議事の進め方について、まず、前回の会議で各委員からいただいた意見等の確認を行った後に、答申案について審議を行い、最終的に答申の内容を決定していくことを説明。

#### ①前回のご意見の確認

(資料18に基づく事務局からの説明要旨)

本資料は前回の運営委員会において各委員からご意見やご質問いただいた内容について、改めて整理を行ったもの。

前回のご意見の確認においては、今回の改定額は保護者の負担が大きいとのご意見や、主食以外の野菜や肉類などのコスト削減対応に関する質問があった。

次に答申のまとめの方向性においては、食材価格が高騰するなか、給食費の改定自体はやむを得ないが、改定額は小さな額ではなく、保護者負担の軽減に向けた検討をお願いしたいとの意見があった。また、前回の委員会の中で道内中核都市との給食費の比較を説明したが、管内町村との比較で給食費の改定を検討してほしかったとの意見や、これまで2年間にわたって行ってきた賄材料費への支援の継続に関する意見があった。

一方、市の給食費への支援は金額も大きく他の予算が削減されているとも考えられるため、本来はサービスの提供を受ける側が負担していく必要があるとの意見や、改定について保護者に納得感を得てもらうために、コスト削減の取組についても周知を行うことが必要との意見があった。

これらの意見を総括して、会長より答申案のまとめの方向性として、給食費の改定は賄材料費の削減等により2円減額し小学校は252円、中学校は325円とすること、基準日数は現行と同じく195日とすること、その他の要望として保護者負担の軽減について検討してほしい意見があること、これらの意見を踏まえて事務局で答申案を作成することとなっていた。

(委員からの質問・意見等)

【委員】

食育通信などの印刷物は「楽メ」を活用したメール配信とすることで、子供から保護者への提出物の渡し忘れが無くなるほか、印刷等にかかる経費の節減に繋がるのではないかと。

【事務局】

ペーパーレス化は経費の節減に有効と考えている。現在、インターネット上で学校給食カレンダーを活用した献立情報の発信を行っており、今後も様々な形で経費節減を進めていきたい。なお、給食センターの運営経費については市が負担しており、給食費として保護者に負担をお願いしているのは食材調達に要する経費のみとなっている。

【委員】

前回は製麺会社について、競争入札の実施により賄材料費の削減が期待できそうとのことだったが進捗状況はどうか。

【事務局】

今回、新たな製麺会社が現れたことで、新学期からの契約にかかる競争入札の実施に向

けて、衛生的に問題がないかなどの確認を進めており、3月ごろの入札を予定している。

なお、麺の入札や米飯への切り替えなど様々な見直しを検討、賄材料費の節減に努めることで、当初見込んでいた改定額を縮減できると考えている。

## ②答申（案）

（資料19に基づく事務局からの説明要旨）

これまでの審議の中で出た意見や質問などを基に和田会長のご指示をいただきながら、事務局で答申（案）の調整を行った。

答申内容については、前回の審議の内容を踏まえて給食費の改定は妥当として内容を整理した。なお、給食費はコスト見直しにより諮問当初に示した見込み金額から、1食当たり2円を引き下げた単価に現行と同じ基準日数195日を乗じて1年あたりの給食費を算出している。

答申理由については、物価高騰に伴う賄材料費の現状や給食費を当初見込みから縮減した経過を踏まえて理由を整理している。

## 【委員】

全体の案として異論はないが、事務局から説明のあった「前回の運営委員会における委員からの意見」の中でも、多くの委員から、『今回の給食費改定は保護者にとって負担が大きいため、負担軽減の検討をお願いしたい』との意見が出ており、運営委員会からの意見として伝えていったほうが良いのではないかと懸念している。

## 【事務局】

今回答申書に保護者負担の軽減に関する記載はしていないが、委員の総意であれば保護者負担の軽減について伝えていただくことは可能と考えている。

## 【会長】

保護者負担の軽減については、答申（案）には記載されていないが、前回は今回も意見があり重要な意見と考えていることから、答申書を手渡す際に、私から教育長へ委員からの意見としてお伝えさせていただく。

## 【委員】

給食費の諮問を受けた時には給食費の改定についての話があったが、基準日数についても同様に諮問をうけていたのか。

## 【事務局】

諮問を行った学校給食センター条例に定める給食費は1日あたりの給食費と、1年あたりの給食費からなっており、1年あたりの給食費を算出するためには基準日数を定める必要

要がある。

## (2) その他

### 【事務局】

本日まとめた答申書については、本日 1 時 30 分に和田会長から教育長に提出いただく予定である。

本日の議事概要については、書面にて後日確認をさせていただく。

## 4 その他

### (1) 学校給食標語コンテスト最終審査について

(説明資料2に基づく事務局からの説明要旨)

本コンテストは、児童生徒における食や生産者等に対する感謝の気持ちの醸成や、栄養バランスのとれた食事をとることの大切さを認識してもらうことで、さらなる食育の推進を図ることを目的として開催し、市内の児童生徒を対象に、9月中にタブレット端末を用いた応募を募った結果、総数597件の応募があった。

応募作品については学校給食センターの職員及び栄養教諭が1次審査を行い、学年ごとの3区分で各8作品を入賞作品として選考したため、各区分の最優秀賞1点と優秀賞2点の選考にあたり、各委員に審査への協力をお願いしたい。

審査方法にあたっては、各区分の入賞作品の中から、各委員が好ましいと思う標語について、1位から8位まで順位をつけ、総得点で最優秀賞と優秀賞を決定するので、持ち帰り審査を行い今月中にセンターへの郵送をお願いしたい。

入賞作品は今後給食だよりや食育通信、ホームページにて公開するなど、様々な形で周知を行い食育の推進に繋げていきたい。

### (2) 挨拶 学校教育部長 服部 哲也

これまで長時間にわたり給食費の改定についてご審議をいただき、心より感謝を申し上げます。おまとめいただいた答申は、この後、会長から教育長にお渡しいただく予定であり、今後、答申を踏まえて、予算編成を通じて検討していきたい。

学校給食の提供にあたっては、引き続きコスト削減の取組を進めるとともに、食育や地産地消の視点に立ち、学校、家庭、地域との連携により、児童生徒の記憶に残る給食の提供に努めていくとともに、子どもたちの健やかな成長に必要な栄養バランスのとれた給食の提供に努めて参りたい。

## 5 閉会